

開催ブロック	九州・沖縄ブロック
日時	令和6年3月20日（水・祝）13:00～17:00
趣旨・目的	本研修は「田舎ism2 書を捨てて里山へ出よう！」をテーマに考える前にまずやってみようということで、中山間地区に会場を設け、ワークショップ形式のプログラムを準備し、日常ではなかなか体験できないことを、それぞれ楽しんでいただく時間とすることとした。昔やったことがある、初めてやってみるということに、それぞれのペース、それぞれの楽しみ方で接し、「楽しい」とは何かを身をもって考える機会になることを目的とした。また、本研修は九州レジャーレクリエーション学会との共催で実施された。
会場	うきは市浮羽町姉川地区
スケジュール	3月20日（水・祝） 13:00 受付、ワークショップ体験 15:30～17:00 シンポジウム
参加者数	45名（内：課程認定校担当教員 9名）
内容紹介	<p>本研修では、うきは市の中山間地区を会場にワークショップとシンポジウムを開催した。ワークショップでは、「お茶体験」や「火起こし体験」、「ジビエ料理体験」、「こんにゃく作り体験」に加え、森林の中での「スラックライン体験」といった「アクティブ体験」も実施された。中山間地区を会場とし、地域住民にも協力をいただきながら様々な体験を実施した。</p> <p>その後、「人生を楽しくする方法を考える」をテーマに、福岡市レクリエーション協会の久保氏、九州共立大学の伊藤氏、立教大学の松尾氏の3名によるシンポジウムが行われた。始めに松尾氏により本日のワークショップを振り返り、レクリエーションのもつ力が地域にどのように活かされ、人生を楽しくするためのレク環境について話題を提供していただき、久保氏は長年、保育現場やレク現場、災害支援などにおける様々な経験をとおして地域の環境をどのように活かして活動をされてきたのかについてご講演頂いた。伊藤氏は心理学の視点からどのような環境をつくり、どのような関わり方をすることで『楽しさ』につながるのかについてご講演頂いた。</p>
所感	今回の研修では、中山間地区にある地域づくりや地域資源の活用についてレクリエーションの視点からみてきた。様々なワークショップをとおして、自然に触れ、地域の人々や食材に触れ、各自が楽しむことができたと思われる。「楽しさ」とは何か、「楽しい」と思うココロについて、レクリエーションを考えるにあたり、理論だけでなく、実践から得るものの大きさに改めて考え直す機会となった。また、コミュニティの一体感が地域創生につながり、ヒトとヒト、ヒトとモノ、ヒトとコトがもたらすレクリエーションの力、意義においても改めて考えることができ、授業や実習を通して、レク資格取得を目指す学生へ還元していきたい。

